

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	無蓋貨車 : 詩
Author(s)	井上, 清一
Citation	龍南, 210 : 15 - 16
Issue date	1929-07-01
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/6870">http://hdl.handle.net/2298/6870</a>
Right	

## ▲無蓋貨車

井 上 清 一

雨に濡れたレールの上を  
機關車を離れた

無蓋貨車が動いて居る、

だがそれは情力に過ぎないのだ、

### ▲愚かな朝

眼の醒めた刹那

俺は俺の脳味噌が

失くなつて居るのを感じた。

曇つて居る、

### ▲夜

頭蓋骨の縫目から  
半分腐り掛けた脳味噌の匂がする、

奴は、

不可解な代物だ、

考へるない、

### ▲郷愁

人の居ない

夜の改札口に

何かと蠢めいて居る、

### ▲電車

のろくと

太い圖体で

定まつたレールの上を

晝も夜も動いて居る、

然し、

レールの上許りぢや無いか、

### ▲犬

犬は自分の暴君に迄も媚び

食つて、歩き廻つて、放尿して、

夜が來ると眠つて、

いや眠りもせず、吠え續けて居る奴も居るが

畜生！

犬の奴が俺の眞似をして居る、

### ▲夜のレール

雨に濡れたレールに

赤い灯が映つて居る

たくましいレール、

おい、泣くのは止せつたら、

### ▲電車

後の奴に越される氣遣ひも無く、

だが前の奴を越す事も出來ず、

安吞だ、平和だ、秩序だと、

わめきながら

のろ／＼と走り續ける、

意久地無し奴、くたばれ、